



どっこいしょ



Dokkoisyo

2017.6.1 (木) 第31号

渡り鳥のなぞ

… 季節になるとやってくるもの …

子ツバメが見ている海の向こうに冬の越冬地があります。→



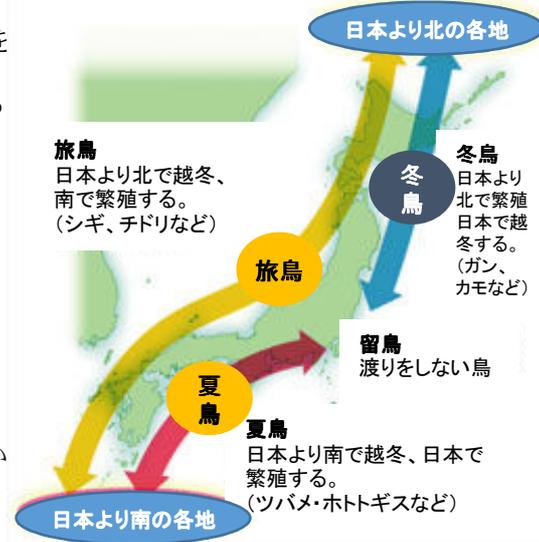
5月の全校集会での話題を紹介しておきます。毎年、春になると姿を見せる“ツバメ”。季節外れの雪とか、季節外れの台風とか、その年の天候によって様々な現象が起きることもあります。渡りをする“ツバメ”は季節を外すことはありませんね。今年もみなさんの家の近所で親ツバメがせっせと巣作りし、かしましい子どもたちを育てている姿を見かけられたことでしょう。

先日、自宅のベランダ前にある電線にツバメが留まっていました。隣家の軒先で巣を作るツバメの家族が飛ぶ練習をしているようです。親鳥と比べると子ツバメたちの身体は小さく、まだまだ渡りには耐えられそうもありません。ピーピーという鳴き声は身体に似合わず大きな音で、親鳥がせっせと餌を運んできています。その後、しばらくするとそのあたりをくるくると飛び回っていました。

このツバメ、渡り鳥で言うと「夏鳥」。日本での産卵期は4～7月頃で、子育て後の越冬地は台湾、フィリピン、ボルネオ島北部、マレー半島、ジャワ島などということです。一方、シベリアやオホーツク海沿岸で繁殖し、冬季は温暖な日本などへの渡りを行い越冬する“白鳥”などは「冬鳥」と言われます。鳥からすれば、温くなるから北上し、寒くなるから南下するのですが、日本を起点にしてみると、冬にやってくる冬鳥、夏にやってくる夏鳥となるわけです。**地図もGPSもないのにすごい！**

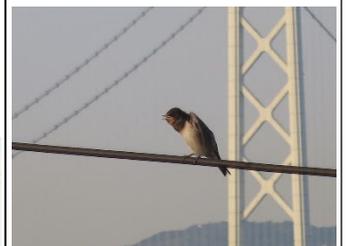
台風とツバメ、季節の便りを届けてくれますが、随分と違いがあります。しかし、昔々から日本列島の豊富な自然環境が生き物たちを呼び寄せ、陸続きの頃を経て、人も海を越えて集まってきたのでしょう。

巣立ちの日まではもう少し月日があるようです。中学生のみなさんも家族や先生から、飛び方を教えられているようなもの。卒業するまでに、飛び方の基礎基本を身につけましょう。



渡

ト、わたり、わたる
シ(かわ)と、音を表す度
(ト：はじめからはじまで歩く意) けりなり、川をわたる意味を表す。



1年生は地域学習

……6月9日(金)

■総合的な学習の時間の一つとして、1年生の1学期には「地域学習」を行っています。地域の自然や文化、歴史などを知り、そこで暮らし、働く人々との出会いから地域をより深く知り、自分なりのテーマや将来について考えるきっかけとします。

■また、調べたことをまとめ、発表する力も学んでいきます。

2017トライやる・ウィーク …… 今年も20回目となります。

6月5日(月)～9日(金)までの5日間

2年生157名が62の事業所で活動します。

■第2学年の学年通信「青葉」No.6に記載されている通り、「トライやる・ウィークが始まった理由は2つの大きな出来事を契機としています。平成7年の阪神・淡路大震災、平成9年の神戸市須磨区の事件。人の命の尊さ、人権の尊重、ボランティア精神、ともに生きることの大切さなど多くの教訓を日本中に示しました。

■地域での体験活動や人との関わりを通して、今の自分を見つめ、将来の自分の生き方を見つけていくきっかけとなっています。今では、各校区だけではなく市内外の事業所にも受け入れ先が広がり、兵庫県だけでなく数多くの自治体で同様の取組が実施されるようになりました。

■今年の5日間も生徒たちにとってかけがえのない日々になる事でしょう。地域や保護者の皆様、事業所の方々、生徒たちへの励ましの言葉と心あたたまる指導をよろしくお願いいたします。



▲毎朝のそうじ、ありがとう。